



Pro Rider's EYE Vol.17

中井 直道

二輪レーサー&スクールインストラクターの安全通信

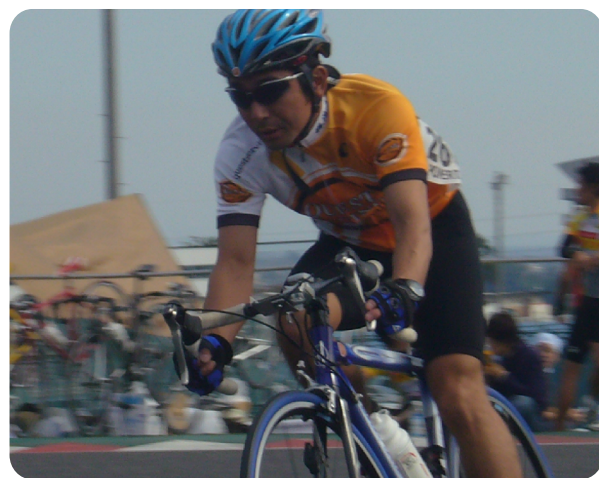
ドライバーは
自転車と共存を

私は3年前にトレーニングの一環として自転車をはじめました。ここ数年、ブームになっているロードバイク（バイクといってもオートバイではありません）です。鈴鹿や岡山の国際サーキットでのレースに参加するなど、すっかり、のめりこんでしまっています。

自転車は健康によい、経済的、環境にも優しいと、よいことづくしなのですが、その陰では事故が増加しています。

ちょうど1年前程前、友人たち数名とツーリングに出かけたときのことです。片側1車線の道路で私は先頭を走っていました。すると対向車線の自動車私の左側のホームセンターへ入ろうとウィンカーを出して止まっていました。すなわち、私の走る車線を横切って駐車場へ入ることになります。私の前方には500mの原付バイクが同方向に走っていたのですが、その原付バイクが通過した途端、対向車線の自動車は私の目の前を右折してきたのです。

普段から右折車に注意をしている私は、その車の存在を確認し、手を挙げて直進のアピールをし、さらに相手のドライバーと目線をあわせていたので、相手は私の存



在に気がついていたはずなのです。

私は慌ててブレーキをかけたのですが、リヤタイヤがロックして、そのまま転倒してしまいました。幸い車の寸前で止まったので大事には至りませんでした。ドライバーの認識はどうだったのかドライバーの女性に確認しました。するとこんな答えが返ってきました。「自転車止まってくれと思った・・・」「自転車なぜか車道を走っていて、その速度が思ったより早かった・・・」

このように自転車はすぐに止まれるもの歩行者と同じ歩道を走るものという誤った認識がまだまだ一般的なのではないでしょうか。自転車は車やバイクと同じ車両であ

り、原則として車道を走るものです（1歳未満の子供や高齢者、標識がある場所は歩道通行可）。

自転車の位置づけは長年、あいまいになってきました。近年は自転車が増えたためか、この位置づけが明確にされつつあります。

しかし、まだまだ自転車が走行するための道路整備は不十分で安全とはいえず、早急に自転車専用レーンの設置等が望まれます。

こうしたなかで、私たちサイクリストはしっかりと防衛意識を持ち、灯火類を装備し、ヘルメットを着用する。そして信号を守り、左側走行を徹底するといった自己防衛とルール厳守の必要があります。

またドライバーの皆さんは、自転車を迷惑と思わず、お互いの安全を確保するために、同じ交通の仲間として共存する考えを持って頂きたいのです。



【なかい なおみち】

'87年にロードレース国際A級へ昇格しプロロードレーサーとなる。その後、全日本選手権に参戦。鈴鹿8時間耐久ロードレースでは19回の決勝進出を果たす。現在は一般ライダー対象のライディングスクールを運営するなど多方面でバイクの楽しさと安全なライディングを伝えている。